

4. 新海洋調査船と新測器——ドイツ Meteor号

西独新メテオール号は雌伏20年のドイツ海洋学者の希望と夢を結集した表徴として1964年10月29日進水した。排水量2740トン、82m長、巾13.5mで船員55名、科学者室24名分の設備を持ち600馬力エンジン5基、高速ディーゼル、直流発電機。2聯動推進モーターにより最大巡航速14ノットである。精確制御位置付けに350馬力アクティブ・ラダー250馬力パウ・スラスター2台。特に騒音と震動を避け、海洋音響研究と高感度測器使用に便ならしめた。ヘリコプター発着用甲板。ゾンデ気球放球台。研究室12(海洋物理、海洋化学、海洋地質、海洋生物、海洋微生物、気象実験室、深海音響測深機室、気象レーダ測器及天気図室)、図書室地震調査用ヘリコプター格納室、工作室、写真暗室、冷蔵室、重力計室を有する測器としては11トン深海ウインチ、新海用水深自記計、小型ウインチ、单相コンダクターケーブル用ウインチ、多相コンダクターケーブル用ウインチ。Bathysonde(バチゾンデ)……水温、塩分を2000m深まで自記、酸素を400m深まで自記。サーモグラフ。サリノグラフ(表面塩分自記々録計)、放射能連続自記計、曳行電極マグネトメーター等を備える。ハンブルグのドイツ海洋研究所に所属する。

(宇田道隆)

5. マグロ漁場調査と新測器 ロングハースト・サンブラー

(出所: Progress Rept.
Scripps Tuna Oceanography
Research Program Feb. 1965)

1964年8月調査船ホライゾン号は南部ローワー・キャリフォルニア西沖でキワダマグロ、カツオ漁場が北限20°乃至21°以南に班状分布を示していることを観察した。Cape San Lucas前線は春季同様夏季にもみられたが、Hardy Longhurst sampler(動物プランクトン用)とTurner fluorimeter(植物プランクトン用)を用い調査した。6、7月この湧昇は顕著であつたが8月にはほとんど止つた。湧昇水は冷水舌をなして沿岸を南〜南西に突出し、栄養塩および主なマグロ餌料動物である甲殻類Pleuroncodes Planipes(植物プランクトンを餌とする)が豊富であつた。1964年夏はローワーカリフォルニア沖はマグロ類が少なかつた。又沿岸の北上反流は見出されなかつた。

Turnerの蛍光計はYentsch & Mendel(Deep-Sea Res, 10: 221-231)

1963) 推賞の光源、フィルターを備え、葉緑素測定に用いられ、蛍光減は葉緑素 a ①減少に比例する。新連続プランクメン・レコーダーは1963/64のSTOR年報に発表したもので、ハーデイのプランクトンレコーダーを鉛直曳に直したような型である。250mまで十数層の動物プランクトン鉛直分布曲線を示し得る劃期的な開発である。

(宇田道隆)

6. ラホヤの水産海洋学センター

加州ラホヤのスクリプス海洋研究所の隣りに米国水産庁が Fishery Oceanography Center を1964年10月21日新築(5000m²のビル)した。3階建に地下室生態実験室(水槽数個)を備え研究者200名以上を有し所長はAalstrom 博士である。分類学、解剖学、生理学、放射生物学、群衆生態学、生物行動、養殖、海洋化学、海洋物理学の部門を持ち海水を汲み上げ、温度調節可能の水槽14を具える。研究船45m長の Black Douglas は近く大きな新船 David Starr Jordan 号(52m 科学者13名、船員22名)に代る予定である。この船は水産、海洋、生物、水理研究室、データ整理室、生物標本室、水中観測室、ウインチ4箇、トロールウインチ1をそなえる予定である。

(宇田道隆)

7. マイアミ大学海洋工学部

マイアミ大学に海洋工学部(Oceanographic Engineering)が設立された。(所在 Virginia Key 海洋研究所 Inst. Marine Science.) この隣りに水産庁熱帯大西洋生物研究所(Tropical Atlantic Biological Lab.)ができた。所長はT. Austin (国際熱帯大西洋協同調査の調整者)赴任の由である。約48000平方呎、2階建て工費100万ドル(一般生物、化学、放射生物学、海産生物生態研究室等、図書館、演習室、工作室、事務室等)、冷凍標本保存室あり、各室海水使用可能である。研究事業として熱帯大西洋海産食用魚(主にマグロ類)の性質、分布、数量調査、市場ニュース、エビ生態学等を行う。

本研究所は隣の海洋研究所と助け合つて行く方針であり、1965年11月22日開所式。熱帯大西洋のシンポジウムをその節開く。マイアミ大学海洋研究所と共に研究船 Pillsbury を用いる

(宇田道隆)